

# 2年ぶりに開花!!



花の谷 2021年7月20日撮影

メキシコ原産。リュウゼツラン科リュウゼツラン属の常緑多年生多肉植物。

淡路島国営明石海峡公園では今、数十年の生涯の最後に一度だけ咲く花“アオノリュウゼツラン（青の竜舌蘭）”が開花しました。園内では、2年ぶりとなり、お花は8月下旬頃までご覧いただけます。

5月中旬から花茎を伸ばしはじめ、3株が8mを超えるほど成長して、枝分かれしたたくさんのつぼみが膨らみ、下から順に咲いてきています。

当公園では、これまで別の株が7回開花し今回で8回目。前回開花が確認されたのは、2019年です。

淡路島国営明石海峡公園の「アオノリュウゼツラン」を是非ご紹介くださいますようお願いいたします。

アオノリュウゼツラン

アオノリュウゼツラン

ついに咲いた!

竜の舌みたいな葉



## お問い合わせ先

明石海峡公園管理センター 佐藤・玉置

TEL: 0799-72-2000 FAX: 0799-72-2100

ホームページ: <https://www.awaji-kaikyopark.jp/> 最新情報は“明石海峡公園”で検索。

この資料や画像はメールでお送りできますのでお問い合わせください。



# ★ アオハユウゼツラン 3つのヒミツ ★

## その① なまえの ヒミツ

- リュウゼツラン**…葉を竜の舌にたとえて“竜舌蘭”と書きます。  
近くで見ていると「竜の舌こんな感じかも」と思うような葉の形。
- アオノ(青の)**…日本に先に入ってきた斑入りの「リュウゼツラン」  
に対して、斑のない緑のものなので“アオノ(青の)”がつけられたそう。  
⇒「アオノ」+「リュウゼツラン」=「アオノリュウゼツラン」なるほど～
- 中国名では**万年蘭**、英語では**センチュリープラント(百年植物)**…  
成長がゆっくりなので「100年に一度咲く」という誤認識からこう呼ばれていますが、  
実際は、熱帯地域では10～20年、日本では30～50年で花が咲きます。

## その② 葉っぱの ヒミツ



- 巨大アロエみたいな葉は、  
幅20cm・長さ1-2mほど、1株に約20-30枚あります。
- 縁はやや波状でトゲがあります。葉の先もとがっていて  
さわると痛いっ！ 近づくときは要注意。
- 最初は指でつまめるほどの小さいサイズですが、  
葉も株もゆっくり時間をかけて成長し、一枚の葉っぱの  
横幅が手のひらより大きいくらいになります。  
(写真は、それぞれ別の株です。)

## その③ 成長の ヒミツ



5/23(約4メートル)  
花茎発見！まるで巨大アスパラ。



6/14(約6メートル)  
どんどん成長。枝分かれ発見！



7/12(約8メートル)  
蕾もついてもうすぐ咲きそう！

## ⇒そして花が 咲き終わったら…

一度咲いた後は、枯れてしまいます。

このとき、根元に小さな株を残します。  
一度で枯れてしまうなんて、さみしい気  
がしますが、小さな株たちがしっかり育  
っていますよ♪  
～親株から子株へ“いのち”のリレー～



↑2019年に開花した株

しっかり育っている子株→